

公表

事業所における自己評価総括表

児 童 発 達 支 援

○事業所名	児童デイサービス にじ		
○保護者評価実施期間	令和7年 3月 1日		令和7年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数) 1名
○従業者評価実施期間	令和7年 3月 1日		令和7年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 4月 30日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○ こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられるよう適切な人員配置を行ない療育、支援を行なっている。 ・専門スタッフの配置を行い医療ケアやリハビリテーションなど安全で質の高い療育の提供。	・身体的、精神的、発達段階に応じ個別支援計画書に沿った療育行う。 ・事業所内での定期的なミーティングやケアカンファレンスを実施し、各専門職が持つ知識や経験を共有している。 ・個別支援計画書をもとに共通の目標や方針を持ち、児童個別のニーズに応じた支援を行う。 ・定期的なミーティングを行いカスタマイズされた支援プログラムを作成している。	・児童発達支援管理責任者の計画書をもとに保育士、児童指導員（3名）・看護師（4名） ・理学療法士（3名）（呼吸、姿勢など専門分野PTにてアプローチ）がチームとなって医療的ケア児の発達支援、療育活動に取り組んでいけるよう外部から講師を招いて勉強会を開いていき意識して取り組んでいる。
2	○ 利用者中心のケア・保護者支援の重視 ・保護者・職員間での信頼関係がしっかり構築されている。 ・一度も保護者から苦情や指摘を受けたことがない。 ・保護者支援を重視している。	・保護者が一時的に休息を取れるようにレスパイトでの受け入れを行い心の余裕を持てるように環境を整える支援を行っている。 ・保護者と定期的なモニタリング、家庭訪問を実施し具体的な悩みや要望に応じた支援の取り組み。 ・定期的なモニタリング、児童の送迎時などを利用して保護者との定期的なコミュニケーションを図り児童の様子や療育の進捗状況を共有するとともに保護者の意見や希望を積極的に取り入れることで支援の質の向上を図っている。	・リモート相談や情報共有ができるオンラインなどITシステムの基盤を構築しつつでも、どこでもアクセス可能な支援の取り組みを図る。 ・保護者がリフレッシュできるイベントや保護者会を定期的に開催しコミュニティの場を設けていく。
3	○ 児童の活動に合わせ環境を整えている。	・児童の療育（保育、医療的ケア、リハビリ等）やその日の利用人数に合わせて環境を変化させ、療育活動や安全な医療的ケアが行えるような環境作りを意識している。	・地域の公園や公共施設を活用した外部活動を増やしスペースの制約を超えた支援を行なっている。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	○ 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと活動する機会、接点がない。 地域交流、移行支援へ向けた取り組み。	・交流中に何か事故や問題が発生する可能性があるため受け入れ側が慎重になりすぎている。緊急時の対応の不安。 ・重度心身障害児や医療的ケア児に対する専門的な知識や経験が不足しているため適切な対応ができないことを懸念される。	子供部会へ積極的に参加し保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域で他のこどもと活動する機会の難しさの現状を伝え、行政が主体となり保育所や認定こども園、幼稚園等との交流の機会を調整することになった。 ・地域の情報を基に交流できるイベントなどに参加しふれあえる機械を作りたい。
2	○ 家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等がしっかり行えていない。	重度心身障害児、医療的ケア児を抱える家族に対して、必要なプログラムや研修を提供しようと努めているが在宅での介護や医療ケア等の様々な理由により研修に参加するための時間の確保が難しい家族がほとんどである。	・研修の開催日時を家族の都合に合わせて柔軟に設定し、平日だけではなく週末の開催や個別での研修参加も検討したい。 ・移動の負担を減らすために、オンラインで参加できる研修を提供し家族が自宅から参加できるようにしたい。
3			